

資料3

地域研修

1. 実施状況
2. 企画・運営のプロトタイプ化

1. 地域研修の実施状況

 : 地域研修コーディネーターの今回の報告範囲

応募団体		奈良県	岡山県	愛知県	徳島県	宮崎県	秋田県
R6希望 テーマ		発災時に自治体に 求められる役割と 応急対策の実態	受援体制の確認	受援体制・受援計画 及び応援団体の 受け入れ	災害対策本部運営 の各班の役割、 関係機関との連携	個別避難計画	初動期の 災害対策本部の 設置・運営
地域 検討 会	事前	7/17 (水)	7/17 (水)	7/30 (火)	7/24 (水)	7/17 (水)	10/3 (木)
	第1回	8/28 (水)	8/6 (火)	9/20 (金)	8/27 (火)	10/15 (火)	11/1 (金)
	第2回	10/2 (水)	9/6 (金)	10/22 (火)	10/9 (水)	11/21(木)	11/18(月)、11/22(金) 1/10(金)
座学	実施期間	10/4 (金) ~ 11/5 (火)	10/15 (火) ~ 11/12 (火)	11/11 (月) ~ 12/8 (日)	11/11 (月) ~ 12/19 (木)	12/6 (金) ~ 1/15 (水)	12/23 (月) ~ 1/30 (木)
演習	開催形式	集合形式	集合形式	集合形式	集合形式	集合形式	ハイブリッド形式
	実施日時	11/6 (水) 9:30-17:00	11/13 (水) 10:00-17:00	12/9 (月) 9:30-17:00	12/20 (金) 9:30-17:00	1/16 (木) 9:30-17:00	1/31 (金) 13:00-16:30
地域検討会 第3回		11/15 (金)	11/28 (木)	12/17(火)	12/25 (水)	1/22(水)	2/12(水)
対象者		・県の防災関係職員 ・県内市町村の 防災関係職員	・県職員 ・県内市町村職員	・県職員 ・県内市町村職員	・県職員 ・県内市町村職員	・県内市町村の 防災担当職員 等	・県職員 ・県内市町村職員
受講者 【修了者】		33人 【26人】	56人 【50人】	54人 【48人】	46人 【40人】	48人 【40人】	46人 【44人】
自主企画		なし	なし	なし	なし	あり	なし
地域講師		なし	なし	なし	なし	あり	なし
コンサル ティングシート		単年度	単年度	単年度	単年度 / 複数年度	複数年度	単年度
コーデ ィ ネーター		大原委員	木村委員	佐藤委員	国崎委員	鍵屋委員	田村委員
地域研修 実施年度		R1/R3~R5	R3~R5	未実施	R5	R3	未実施

〔徳島県〕 令和6年度地域研修

研修のテーマ 災害対策本部の運営について（各班の役割、関係機関との連携）

オンデマンド講義：11/11（月）～12/19（木） 演習：12/20（金） 集合形式 コーディネーター：国崎委員

時間	単元名	講師名	実施内容	コーディネーター意見
09:30 ～09:40	オリエンテーション			
9:40 ～9:55	【講義】 令和6年能登半島地震について国としての課題認識	菊池 正彦 (内閣府)	国の視点による能登半島地震での課題認識や南海トラフ地震を見据えた国での取組等の情報が提供された。  	内閣府、対口支援で支援活動をした市職員、民間、それぞれの視点から令和6年能登半島地震における災害対応の実態と課題について情報提供がなされました。 内閣府の視点として、能登半島地震の内閣府の検討報告、防災庁の立ち上げに関する最新情報、補正予算に関する国の動向、今後、各県に関わってくる有益な情報を提供いただけました。 市職員の視点として、派遣支援先の活動の実態と課題を紹介いただけただけで今後の災害対応の課題が明確になりました。 民間の視点として、一般的に報道されていない見落とされてきた要配慮者の対策と今後の災害対応に含むべき活動を示唆しました。
9:55 ～10:25	【講演】 令和6年能登半島地震について災害対応の実態と課題(市町村の視点)	中山 博之 (徳島県美馬市)	能登半島地震での応援経験に基づき、市町村の視点から、災害対応の理解を図った。  	
10:25 ～11:25	【講義】 令和6年能登半島地震について災害対応の実態と課題	国崎 信江 (危機管理教育研究所)	民間の視点から、能登半島地震等での災害対応の実態と課題の理解を図った。  	
11:25 ～12:25	昼休み			
12:25 ～14:55	【演習】 災害対策本部における対応	元谷 豊 (サイエンスクラフト) 国崎 信江 (危機管理教育研究所)	災害対策本部の初動期の対応、避難所開設・運営時の対応業務、物資の提供・調達・輸送について、県・市町村の課題や役割の理解を図った。   	4限目では、これまでに学んだ被害と実態を我がこと化するための演習を行いました。 3つのテーマ①災害対策本部の初動期に取り組むべきこと、②避難所における生活環境確保、③被災者への物資の提供と物資調達・輸送の流れを各班に分かれて議論していただき、各班の発表によって全体に情報を共有しました。 5限目は、全体として、職員の心構えのところが受講者の印象に残る講演でした。現場ではなく、内閣府のオペレーションの話は、普段聞くことがないので、どのような意思決定がされてきたかが役に立つ講演でした。 6限目では、みなさんの検討結果の中に、訓練の重要性が挙げられており、講義の学びが反映されていました。また、確実に初動対応をするためのFMBへの関心が高かったようです。 研修全体として、防災スペシャリスト養成研修の目的の1つである人的ネットワークや顔の見える関係の構築は、多くの方が重要と考えており、今回の研修で成しえたと感じています。
14:55 ～15:05	休憩			
15:05 ～15:55	【講演】 令和6年能登半島地震について災害対応の実態と課題(県の視点)	朝田 将 (徳島県(前内閣府))	県の視点から、能登半島地震の災害対応の実態と課題の理解を図った。  	
15:55 ～16:00	休憩			
16:00 ～16:50	【演習】 全体討論	事務局 (サイエンスクラフト) 国崎 信江 (危機管理教育研究所)	演習を通じて、研修全体で学んだことから、地域の防災力向上や備えに反映すべきことを受講者間でふりかえった。   	
16:50 ～17:00	閉講			

ふりかえり意見抜粋 ※【県】：県担当者意見／【コ】：コーディネーター意見

【県】 普段話さない市町村の防災担当同士で演習や意見交換ができて良かった。／研修を2日に分ける等、集中力維持の工夫が必要。／コーディネーターと企画詳細を詰める時間ももっと必要だった。

【コ】 オンデマンドと研修がリンクしてより理解が深まった。／早い段階で県・講師・事務局間で県の意向を共有・理解する場があると良い。／演習の成果を実務に反映しやすくなるよう、地域防災計画へ反映する演習等の工夫が必要。

〔宮崎県〕 令和6年度地域研修 演習実施レポート

R7.03.10
第5回「防災スペシャリスト
養成」企画検討会資料

研修のテーマ 要配慮者に関連する防災対策（個別避難計画）

オンデマンド講義：12/6（金）～ 1/15（水） 演習：1/16（木） 集合形式 コーディネーター：鍵屋委員

時間	単元名	講師名	実施内容	コーディネーター意見
09:30 ～09:40	オリエンテーション			
09:40 ～11:40	【講義】 近年の大災害と 個別避難計画	鍵屋 一 (跡見学園女子大学)	近年の大災害での事例を通じて、災害時における要配慮者の避難の課題や個別避難計画になぜ取り組まなければならないかの理解を図った。  	全体のテーマが個別避難計画なので、社会の脆弱性に焦点をあて、また事例をわかりやすく伝える講演に努めた。
11:50 ～12:50	昼休み			
12:50 ～13:40	【演習】 要配慮者避難の 事例研究	鍵屋 一 (跡見学園女子大学)	ワールドカフェ形式で参加者同士の顔の見える関係をつくり、要配慮者避難の事前の取り組みへの気づきを深めた。  	事例検討の後にグループワークを行う流れは、個人でしっかり考えた上で同じ情報で情報交換、対策の検討ができたので効果的であった。
14:55 ～15:05	休憩			
13:40 ～15:50	【演習】 個別避難計画の 作成	鍵屋 一 (跡見学園女子大学)	自組織の個別避難計画の様式を持ち寄り、個別避難計画の作成上の課題の共有を図り、質疑応答で課題への対応策や解決策のヒントを学んだ。  	個別避難計画の様式を持ち寄りから、具体的な変更点を議論し、よりよい様式の作成について考えることができました。また、質問をグループで考えることで、個人では質問しにくいことも講師に質問しやすくなり、疑問点の解消につながったように思われた。
15:50 ～16:00	休憩			
16:00 ～16:50	【演習】 全体討論	事務局 (サイエンスクラフト) 鍵屋 一 (跡見学園女子大学)	演習を通じて、研修全体で学んだことから、地域の防災力向上や備えに反映すべきことを受講者間でふりかえった。  	受講動機から研修の成果までグループワークで整理したことは、受講者の意欲を高めるとともに、自治体を越えた交流のよい機会となった。
16:50 ～17:00	閉講			

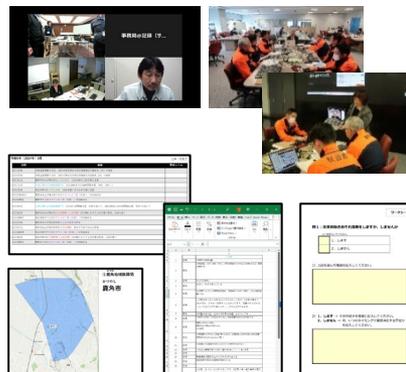
ふりかえり意見抜粋 ※【県】：県担当者意見 / 【コ】：コーディネーター意見

- 【県】 ワールドカフェ形式では受講者が熱心に話し合い、コーディネーターの講義が受講者の話を引き出すきっかけとなっていてとても良かった。
／本研修をモデルケースとして、次年度以降は県で実施したい。
／募集前に県から市町村に対してオンラインの説明会を行ったが、奥まった小さい自治体には研修の価値が伝わりきらなかった。
- 【コ】 県の目標（個別避難計画の作成）が明確だったため、企画が立てやすかった。／地域検討会の第1回は目標や受講者に理解してほしいことを県と事務局で検討したうえで、カリキュラム案を作成し、第2回では、コーディネーターに具体的な内容を相談、という流れでよいのではないかと。
／災害ケースマネジメントでは、多職種連携が重要であるため、様々な立場の方に参加してもらい、気づきを深めてもらえるとうい。

〔秋田県〕 令和6年度地域研修 演習実施レポート

研修のテーマ 初動期の災害対策本部の設置・運営

オンデマンド講義：12/23（月）～ 1/30（木） 演習：1/31（金）ハイブリッド形式 コーディネーター：田村委員

時間	単元名	講師名	実施内容	コーディネーター意見
13:00 ～13:10	オリエンテーション			
13:10 ～15:20	【訓練】 災害対策本部における対応	田村 圭子 (新潟大学) 井ノ口 宗成 ※1 (富山大学) 菊池 正彦 ※1 (内閣府) 小松原 康弘 ※1 (セコム株式会社・富山大学) 辻 道代 ※1 (メイキングチェリルプラス) 細貝 和司 ※1 (NPO法人Dawn of Niigata) 元谷 豊 ※1 (株式会社サイエンスクラフト) 山本 晋吾 ※1 ※2 (兵庫県)	水害によって県内のいたるところで水害が発生するとして、緊急・応急フェーズと生活再建業務の準備までを訓練対象とした。地域振興局ごとに管轄の市町村も含めた班分けを行い、ファシリテーターが市町村に対して状況付与を行った。市町村は状況をとりまとめ、意思決定方針を地域振興局に報告する。地域振興局は管轄の市町村をとりまとめて、県に報告し、必要に応じて対応調整を行うという災害対応の一連の流れを疑似体験した。 	訓練中、災害救助法の理解など、基本的な知識の理解から必要だった班があった。訓練前までに受講者が視聴しているオンデマンド講義が、訓練に必要な基礎知識を学べる内容となっているか確認が必要だった。ファシリテーターは、受講者からの様々な質問への回答を求められるが、今後、ファシリテーターの質を一定に保つためには、ファシリテーター用のシナリオを用意する必要があると感じた。県の意向を踏まえ、研修が訓練かを明確に示すよかった。 市町村ごとの浸水被害の状況付与に実際の建物名や地名を入れたため、受講者は被害の範囲がイメージしやすく盛り上がった。これを元に、どういう対策をとるとよいか、県にどう報告や要求するかを検討してもらうとよかった。県と振興局が打合せや、連絡を取り合う手段があるとよかった。 Wi-Fi環境やパソコン等の機材、運営体制は今回の研修を踏まえて見直す必要がある。 次年度以降、他の地域でも実施できるように、企画・準備を標準化する必要がある。
15:20 ～15:30	休憩			
15:30 ～15:50	【演習】 全体討論	田村 圭子 (新潟大学)	訓練をふりかえって各班の代表者に発表してもらうことで、訓練を通じて学び・得たものの全体共有を図った。 	
15:50 ～16:20	【講義】 能登半島地震から学ぶ直近の災害対応事例について	本谷 徳康 ※2 金谷 和樹 梅林 若那 (石川県) 安倍 華子 ※2 奈良 悠大 (秋田県(現在石川県出向中))	令和6年能登半島地震での経験を踏まえ、大規模災害時の被災地における広域避難対応、石川県での災害対応(みなし仮設)業務と事務処理・受援体制の留意点、石川県における地震・豪雨の二重被災対応への理解を深めた。 	
16:20 ～16:30	閉講			

※1：ファシリテーターとして参加 ※2：オンラインにて参加

ふりかえり意見抜粋 ※【県】：県担当者意見／【コ】：コーディネーター意見／【フ】：ファシリテーター意見

- 【県】 地域研修のような様々な研修パッケージがあるのはありがたい。／講師と挨拶できる時間を設けてもらえるよかった。
- 【コ】 Web形式により普段会う機会のない人同士が交流でき、新たなネットワーク形成につながった。／県が自前で研修ができるツールの提供や、様々なプログラムの作成・提供、人員の派遣など自立した研修ができる環境を整備する必要がある。
- 【フ】 知識が豊富であっても災害時に問題解決ができるわけではないため、今回のような考えられる人材を育成する研修が今後も必要。／今回の訓練のように災害時にweb上で対応の議論や情報共有の機会は増えるため、反省点をふまえ、良い方向に持ってほしい。

2. 企画・運営のプロトタイプ化について

- 地域研修の企画・運営のプロトタイプ化を検討するにあたって、秋田県での「企画・準備」・「研修」・「ふりかえり」の流れを整理した。
- 次年度はこの整理結果を元に、「企画・準備」・「研修」・「ふりかえり」の流れの標準型を検討する。

秋田県での「企画・準備」・「研修」・「ふりかえり」の流れ



- ・訓練の企画概要は次ページ参照
- ・研修当日の詳細は参考資料2-3参照

● 地域研修(秋田県)が希望したテーマ「災害対策本部運営(初動期)」で実施した訓練の企画概要は次のとおり。(参考資料2-2参照)

訓練型演習①

災害対策本部運営(初動期)

実施形式

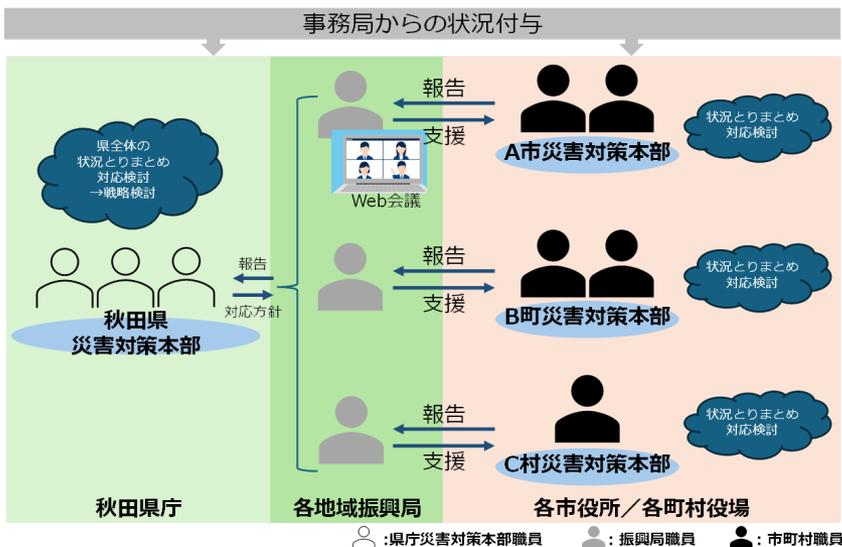
実際の災害対策本部の状況の再現を試行的に実施するため、次の形式で実施。

県庁災害対策本部職員 ⇒ 対面形式
地域振興局職員、市町村職員 ⇒ Web形式

着目ポイント

水害時、外水氾濫を注視しがちだが、内水氾濫の発生にも意識を向けられるかどうか。

訓練の実施方法



主な準備

① 浸水域の作成

各市町村の地形に合わせた浸水域の地図を作成します。

② 住民等のX(旧: twitter)情報の作成

ひな形と①の地図を元に、市町村の地名や建物名を入れて、浸水域を予想できるように作成します。



浸水域

市民	#小坂町 ローソン・小坂町店の開店。世紀末モードの中、帰宅。これより我が修繕に入る。
市民	小坂町立老人憩いの家 あかしやが冠水してます。5分前の時点で15cm冠水、これより手前も冠水してます。足音が水に浸かるくらいで出てこれ良かった…。これ水溢れてるよね
市民	娘の勤め先付近・北あけぼの自治会館。水がついてる
市民	小坂町もうぐみだ もう冠水とがじやない。奈良岡屋付近に川が流れてる
市民	道路って川なんですな。脚が流れて渡るの大変でした。#小坂町

住民等のX(旧: twitter)情報

訓練の災害シナリオの概要

- 水害シナリオで実施
- 県内のいたるところで同時多発的に水害が発生
- 対応期間は、災害のおそれから緊急・応急フェーズ
- ただし、生活再建業務に向けた準備までは訓練対象とする

当日の訓練の流れ

